

令和5年度 児童アンケート集計結果

4:よくあてはまる
3:ややあてはまる
2:あまりあてはまらない
1:まったくあてはまらない

評価項目		全学年の児童の評価割合					
		4	3	2	1	平均点	昨年度
くらしのこと							
1	学校は、楽しい。	61.4	33.6	4.0	1.0	3.4	3.6
2	自分から進んであいさつや返事をしている。	44.0	43.9	10.1	2.0	3.1	3.3
3	先生から話しかけられたら、言葉でしっかりと答えている。	44.3	45.4	9.0	1.3	3.3	3.4
4	廊下や階段を走らず右側を静かに歩いている。	28.5	47.2	19.0	5.3	2.7	3
5	優しい言葉を使ったり、「さん」を付けて名前を呼んだりしている。	30.5	34.2	25.0	10.3	2.5	3.1
6	友達に優しくし、仲良くすることができている。	62.6	31.7	4.6	1.1	3.5	3.6
7	元気に登校し、給食を好き嫌いせず、残さず食べている。	62.0	23.8	10.6	3.6	3.4	3.5
8	2分前着席をしっかり守っている。	34.8	45.8	16.3	3.1	3.1	
9	けがをせず、ルールを守りながら外に出て遊んでいる。	54.3	30.7	10.4	4.6	3.1	3.5
10	「もくもくそうじ」ができている。	38.8	47.6	12.9	2.7	2.9	3.2
11	日直や給食当番などの仕事をしっかりやり遂げている。	77.4	19.6	2.2	1.8	3.7	3.8
12	自分のことは人に頼らず自分でできるし、自分で決めたことは最後までやり遂げる。	39.0	47.6	11.4	2.0	3.1	3.2
13	よいと思うことは進んでやり、してはいけないことを我慢することができる。	41.8	47.3	9.2	2.7	3.2	3.3
学習のこと							
14	先生や友達の話最後までしっかり聞いている。	56.8	36.2	5.9	1.1	3.4	3.5
15	授業中や話合いの時、自分の考えを進んで発表している。	35.9	34.1	21.9	8.1	2.7	3.1
16	みんなや学級のために意見を言ったりわからないことがあったら質問したりしている。	28.6	38.4	27.6	5.4	2.8	3
その他							
17	タブレットをルールを守りながら大切に扱い、学習のために使っている。	71.9	23.5	3.5	1.1	3.6	
18	先生の授業はわかりやすい。	72.8	22.2	3.0	1.0	3.6	3.8
19	家庭学習（宿題）をきちんとしている。	74.0	18.8	5.2	2.0	3.6	3.7
20	先生は話（考えやなやみなど）をよく聞いてくれる。	67.6	26.4	4.3	1.7	3.6	3.7
21	先生は、よいことをしたり努力したりしたことをみとめ、ほめてくれる。	67.5	25.4	4.8	2.3	3.5	3.7

考察

【くらしのことについて】

・残念ながら、全ての項目で昨年度を下回る結果となった。挨拶については、今年度重点的に指導を続けてきたが、現在の時点で十分な結果を残すことはできていない。その原因として、子供たち自身の挨拶への意識が高まっていない、もしくは、教師が繰り返し指導をする中で子供たちが「まだまだ不十分」と捉えていることも考えられる。いずれにせよ、残り2か月、挨拶向上の総仕上げとして、引き続き全校を挙げて指導をしていく。また、「くん、さんを付けて呼ぶなど、優しい言葉遣い」については0.6Pダウンの2.5Pという厳しい結果となった。「友達に優しくし、仲良くすることができている」については3.5Pと比較的高い結果となっていることから、仲良くはできているものの優しい言葉遣いできていない、つまり多少乱暴な言葉も馴れ合いになってしまっていると考えられる。道徳科の時間も使いながら「相手のことを大切に言う言葉」について考えさせ、優しい言葉遣いに対する子供たちの意識を高めていきたい。

【学習のことについて】

昨年度から「聞くこと」について全校で重点的に指導をしてきたこともあり、2年連続で比較的高い結果を残すことができたように思う。その反面、「自分の考えを進んで発表」「みんなのために意見を言う」は昨年度に引き続き、満足できる結果ではなかった。一部の子供たちを主導に授業が進んでいる、対話的な学びに向けた指導が不十分であることが原因であるので、校内研究などの時間に共通理解を図り、授業改善を進めていく。

【先生や自分のことについて】

・概ね、満足できる評価だったが、昨年度と比較すると、0.1P～0.2Pダウンという結果であった。このうち、18、20、21については、「学校が楽しい」の評価と大きく関連がある項目なので、僅かな下げ幅と軽視するのではなく、教師自身の指導をふり返らせながら改善に努めたい。また、教師が子供たちと余裕をもって向き合えるよう、働き方の見直しも引き続き行っていく。